

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	駒村（丸山）桂【論文博士】 (人間発達学専攻 平成11年3月単位修得退学)	<p>生活保護受給者数が戦後最高を更新し、それに伴い子どもの貧困率が上昇している我が国の社会的背景をもとに、本研究では、貧困の世代間連鎖が存在するのか、そしてもし存在するのであれば、何故なのかを明らかにすることを主な目的としている。筆者は Becker の人的資本理論をもとに、Bourdieu の家庭内文化資本と社会関係資本論、そして Kohn の親資源論などの多領域に渡る理論を援用して、本研究の理論的枠組みを構築し、この総括的なモデルから導き出した仮説を回顧型インターネット調査 (n=10 万人) と厚生労働省「21 世紀出生児縦断調査」(n=4.7 万人) のデータを分析して検証を行った。</p> <p>主な結果として、子ども時代に生活保護を受給した経験のある人は現在生活保護を受給している確率が統計的に高いこと、親の階層（就業形態と学歴）が高い家庭で育つ子どもほど、養育の質と家庭内文化資本の水準が高く、中学校時代の主観的成績に正の影響を与えていること、そしてこの成績が最終学歴を通して世帯収入を高めていることが明らかになった。</p> <p>予備審査委員会は平成 25 年 11 月 14 日に開催され、本審査委員会は、平成 26 年 1 月 15 日に開催された。本審査委員会ではかなり完成度の高い論文と評されたが、貧困の定義に関する議論が不足気味であること、生活保護受給者のネットアクセスの可能性を明示すること、解析結果のサマリーの必要性、生活保護受給と貧困状態の区別化などに関するコメントと提案があった。再提出された論文は委員会の指摘に基づいて書き直しが行われ、審査委員全員のコメントに対応した結果、かなりの改善が認められた。</p> <p>審査委員会は、経済学と社会学視点からミクロな規定要因について検証できたこと、学際的な理論を用いてオリジナルな包括理論を構築したこと、理論から派生した仮説を貴重な大規模データ及び縦断調査データを用いて、高度な統計手法により分析されたこと、社会保障政策や教育面での重要なインプリケーションを導き出したことなどについて、学際的視点からの本研究の意義を認めた。</p> <p>公開発表会は平成 26 年 2 月 27 日に行われ、発表は非常によく整理され、いくつかの質問に対して申請者は適切に回答した。審査委員会は、本論文が、本学大学院人間文化創成科学研究科の博士の学位の水準に十分達していることを認め、合格とし、博士（社会科学）Ph.D. in Social Sciences の学位を授与することを全員一致で決定した。</p>
論文題目	子ども時代の貧困経験が人的資本形成に及ぼす影響 一貧困の世代間連鎖の実証分析一	
審査委員	(主査) 教授 石井クンツ昌子	
	准教授 斎藤悦子	
	准教授 大森正博	
	教授 平岡公一	
	教授 菅原ますみ	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（可・<input checked="" type="checkbox"/>否）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ. <input checked="" type="checkbox"/> 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">エ. <input checked="" type="checkbox"/> 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第 24 条第 4 項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	